

都市計画マスタープラン策定 まちづくりフォーラム・ワークショップ 取りまとめ結果報告書



平成21年11月

中標津町

まちづくりフォーラム（H21.11.5）ワークショップの意見のまとめ

・キーワード

1．地方都市としての魅力を活かす	1
2．歴史を伝える	1
3．ゆとりある暮らし	1
4．安全・安心な生活環境	1
5．高齢者や障がい者が安心して暮らせる思いやりのあるまち	2
6．子どもを育てやすいまち	2
7．若者が楽しめ、夢の持てるまち	3
8．スポーツのまち	3
9．ふれあい、交流のあるまち	3
10．協働・共創のまちづくり	3
11．行事、イベント、祭り	4
12．自然環境と調和したまち	4
13．川づくり	4
14．水・空気のおいしいまち	4
15．景観や風景の美しい町／環境美化	4
16．酪農、農業の元気なまち	5
17．“食”の美しいまち	5
18．地場産業の元気なまち	5
19．街なかの賑わい、市街地の活性化	6
20．交通の利便、立地特性を活かす	6
21．観光の振興	7
22．広域連携	7
23．コンパクトな都市づくり	7
24．都市マスの推進	7

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
1 地方都市としての魅力を活かす	・街としての機能がそろうって生活環境がよい	・地元の良さに気づいていない。	・地方都市の魅力をうまく生かしたまちづくりが必要。	
	・街がコンパクトで住みやすい(15分くらいどこでもいける)	・良いものはあるが、うまく活用できていない。	・町のなかにストーリーをつくる必要がある。	
	・買い物便利、生活に必要な店、企業がある			
	・衣・食・住、基本的に不足はない。			
	・文教施設(プール、図書館etc)が整っている	・公共施設への標識が足りない。		
2 歴史を伝える	・とりあえず病院がある	・医療がもっと安心できれば、道外からも老人が集まる可能性がある		・中標津の歴史、写真をまとめて閲覧できるようにインターネットで公開する
	・大きな公園が多い		・公園を大切にしていきたい。	
			・歴史を学び、感じられるまちづくりが必要。	
3 ゆとりある暮らし			・過去～現在～未来に繋がる中標津らしさのテーマを追求する必要がある。	・郷土館を街の中心部に
			・これまでの100年間を知ることが第一。	・歴史的建造物の保存。
			・幸福感＝ゆとりの感じられるまちづくりが求められる。	・雨宿り空間をつくる
4 安全・安心な生活環境			・歩いて暮らせる、自転車で移動できる街をつくる必要がある。	
			・歩いて楽しい町にする必要がある	・まちなかを歩いて桜、楓を楽しむまちにする
			・散歩コースが色々ある楽しい街が求められている。	
		・橋があるのは当たり前だが通れないときはどうする？	・災害に強いまちづくりを目指す必要がある。	・災害訓練等、地域の一体感のある取組により、共通認識が高まる。
		・犯罪を防ぐまちづくりを目指す必要がある。		
	・街灯に庭の木がかぶさり電灯を隠し暗くなる。	・不在地主の木の管理を地域全体で対応していくことが必要。		
		・一生安心して住める町にしていきたい。		

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
5 高齢者や障がい者が安心して暮らせる思いやりのあるまち	・高齢者の福祉施設がない	・お年寄りの交流の場がない	・高齢者が元気に安心して暮らせる高齢者にやさしいまちづくりが必要。	・高齢者の公営住宅を街なかに
		・(高齢者の)バス券助成がなくなった。	・車を使わなくてもお年寄りが行動しやすい、生活しやすい歩いて暮らせるまちづくりが必要。	・大広場につながっている街(プラットホーム)をつくる
		・10年、20年後、年寄りの行き場はあるのか？	・障がい者や高齢者にとって歩きにくい道をなくすことが必要。	・車に代わるインフラ「ぶどう型」のまちをつくる
		・老人に対するサービスが何もない(他町に比べて)。	・お年寄りがお年寄りを元気づける社会も必要。	・中心地の空き地に児童館と介護施設を併設
		・老後一人になって介護が必要になった時に施設が足りない。不安である。	・高齢者・障がい者の集まれる場所を街なかにつくる必要がある。	・老人ホームと幼稚園を街なかに
			・医療福祉の充実が求められている。	・中心地に老人ホーム、ケアハウスを
			・一人暮らしのお年寄りが安心して暮らせるサポートシステムが必要。	・独居老人、高齢世帯家庭の把握・管理(行政、町内会)。
			・高齢者が楽しめる動機付けが街には必要。	・公園周辺に楽しめる施設を
				・公営住宅、アパート、マンションを街なかに ・障害の比較的重い子のための教育、学校環境を整える
6 子どもを育てやすいまち		・子育て情報交換の場がない。	・子どもを育てる体制づくりが必要。	・学校の協力、町内会の意識
			・子どもたちの心の豊かさを育成することが必要。(モラル教育が必要)	
			・子どもたちの健康保持環境を整える必要がある。	
			・大人と子どもと一緒に集える場が必要。	
			・子どもたちのたまり場が必要。	
		・使っていない住宅地の空き地の草が伸び放題で環境が良くない。	・子どもにとって魅力のあるまちづくりを行う必要がある。	・会館の利用を子どもたちの遊べる場へ開放。
		・子どもが気軽に遊べる場所がない。	・空き地を活用して子どもが遊べる環境をつくることが求められる。	・空き地を公園にする
			・子どもが多い町に。	・高度な知識ばかりでなく、ゆとりのある教育を行う。
			・子ども達が安心して教育を受けられるまちづくりを行う必要がある。	・タワラマップ川を整備して子ども自由にのびのびと遊べる所にする。
		・若い人たちが安心して働け、子どもを育てられるまちづくりを行う必要がある。	・学校のセキュリティーを充実させる	
			・古い公園の復活(丸山公園、ほかり公園)	

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案	
7 若者が楽しみ、夢の持てるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教育が充実している(中標津高校、農業高校、高等養護学) ・農高で羅臼の深層水利用の商品開発を行っている。 	・農高の入学生が減少	・農業高校をもっと大事にし、活かすことが必要。	・農高ショップを街なかにつくる。	
			・酪農の町、農高の価値を見直す。	・農高の生徒達によるレストラン運営	
			・農高の生徒が酪農に就けるような仕組みづくりが必要	・農校を中標津市街に移転。	
			・高校生と地域とがつながってできる活動をつくる。 (そうすることでいずれ彼らが街に戻ってくる)	・中高生が外に出て体験実習、アルバイトをすることでしつけがされる。	
			・若い人が社会貢献やスポーツなどで活躍できる場を設けることが必要。		
		・若者の集まる場所は大型ショッピングセン	・若者の集まる場所がない	・中高生の居場所をつくる必要がある。	・街なかには人の呼べる娯楽施設を
			・学生の遊ぶ場がない。	・若い人が集まる施設が必要。	・通信制の大学(介護)。 ・介護関連の施設の誘致。 ・若者が集う大学など誘致
8 スポーツのまち			・スポーツ都市なかしべつを目指す	・役場内にスポーツ課を置く ・お金を取れる野球場、サッカー場をつくる。	
9 ふれあい、交流のあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体、文化サークルの数が多く、元気がある ・移住者から文化が導入されてくる 	・若い人の町内会役員引き受け者がいない。	・人間関係を大切にしたい社会環境を整えていく必要がある。		
		・町内会や老人クラブが高齢者のまちづくり活動の媒体として考えられている	・現在の隣組交流を強くしていくことが求められる。	・町内会単位を小さくする(顔を見えるようにする)	
		・人の動きがあり外との交流がある	・街づくり工房元気の若者の会員が少ない(平均年齢60歳)	・若い人たちの町の活性化への参加が必要。	・いろいろな町を転勤して回った楽しい情報の共有化する。
				・家の周りの畑や、花づくり等で行き交う人と気軽に挨拶できるまちづくりが求められている	
				・あいさつや思いやりのある人であふれるまちづくりが求められる。	・基本は大きな声であいさつ。 ・感謝とありがとうの気持ちを自分以外の人みんなに持つ。
	・町民はその土地の中で生かされている。	・生かされているという謝恩の気持、意識が足りない。	・お年寄りが持っている文化を次世代に伝えていく必要がある。		
10 協働・共創のまちづくり			・行政と町民と一緒に協働・共創によりまちづくりを行う必要がある。		
			・町民一人一人が出来る事を協力・行動する。		
			・シルバー人材センターの活用方法の検討が望まれる。		

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
11 行事、イベント、祭り	・夏まつり、JAまつり、商工会まつり、伯爵まつりが行われている。	・祭りへの参加は、何か動機づくりが必要。高齢者は特に。	・参加しやすいイベントの開催、工夫が求められる	
12 自然環境と調和したまち	・緑豊かな自然が豊富（川面は特に緑が多い）	・自分には分からないが、町外の人が美しいという。	・自然と暮らしが豊かに調和するまちづくりが必要。	・環境に取り組んでいる町へ。
	・身近な自然		・豊かな自然を守り、大切に作る心が必要。	・愛町心～町木、町花など現代にあったモノに選びなおす。
	・市街地内の緑が素晴らしい。	・子供の頃に林や森に色々な虫（クワガタ等）がいたが、今は少なくなった。		・標津川、町を含めて段丘面の緑を保全。（町に入るルートから見て）
	・緑に関する意識が薄く感じる。	・簡単に木を刈ってしまう。		・市街地区に緑を多く植える。
	・格子状防風林がきれい		・防風林を守るのと同時に活用していくことを考えることが必要。	・道路は全て並木道にする。 ・間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。 ・ペレットの会社、ストーブの会社をつくる。 （防風林の管理にもなる）
13 川づくり	・標津川を中心に武佐川、ケネカ川、俣落川、荒川、タワラマップ川、チナナ川がある。	・河川改修が行われている	・釣りの出来るような自然の流れのままの川を残していくことが必要。	・川の改修工事は行わない
	・町のなかで川魚が釣れる川があるのが良い ・街の中心にタワラマップ川が流れている。		・市街地の中心を流れる標津川を守る。 ・町、川、人が交流できる仕掛けが必要。 ・タワラマップ川を中心に川を活用した街づくりを行う必要がある。	・昔の一条橋のような歩道橋を架ける ・タワラマップ川を使って子供からお年寄りまで遊べる公園をつくる。 ・タワラマップ川を子供が近づける川にする。
	・牧場と街を川がつないでいる。			
14 水・空気のおいしいまち	・水が美味しい、水がきれい	・この美味しい水を永遠に続けていく。	・水と土を守って行くことが必要。	・計画外地域にも水道を。
	・水源の多い町（俣落川の水源等）	・最近、少しの雨で川の水が濁ることが気になる。		
	・空気が美味しい			
15 景観や風景の美しい町／環境美化	・街なみがとりあえずきれい		・美しいまちなみのまちづくりをする必要がある。	・一人ひとりが自分の住んでいる家屋敷をきれいにする。（そのことで周りもきれいにする意識を持つ）
	・景観、風景がきれい		・緑と川の景観を残していくことが必要。	
	・新しい物より今ある景観でも十分魅力的。 ・ゴミ拾いをしながら歩いたら2～3年でゴミの量が減ったと感じた。	・街なかにゴミが落ちている。	・公園を守っていく必要がある。 ・ゴミのないきれいな街にしていける必要がある	・通勤でゴミを拾う ・多くの人が歩いてゴミを拾うと街はきれいになる。
		・犬のフンが落ちている。		

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
16 酪農、農業の 元気なまち	・酪農、じゃがいも、大根 ・牧草地の良い風景	・臭い ・農業者の高齢化が進行している。	・都市と農の住み分けが必要。 ・雇用対策が必要となっている。 ・楽しい農業で生活できる環境であればいい。	・公共や企業による支援、指導の仕組みをつくる。
	・北国の幸便を行っている(本州の人との交流、経済流通がある)	・良いものはあるがうまく活用できていない		
17 “食”の美味しいまち		・中標津の一品は何か？	・歩き、そして食べるグルメの街にする。	・鹿肉ステーキやワインを楽しめる美味しいレストランを中標津に。
	・海産物が美味しい		・海、山、川の幸を活かすことが必要。	・まんじゅう、茶を食せる店があると楽しい ・山菜を使った食の提供。
				・空地にタランボを植林する。
				・中標津お好み焼き(ホエーで生地をつくり、動産食材を利用)で交流を生む。
				・家の周りをハーブ野菜や花などの畑で囲み、みんなと大きな家族のように食事やお茶、おしゃべりの出来る環境を
	・種類が豊富で良質な乳製品がある (牛乳、チーズが美味しい)	・酪農、乳製品はコストが掛かりすぎる。	・乳製品で魅力的な物を生み出すことが求められている。美味しい乳製品を安く提供することが課題。	・乳製品のスイーツを活かして街なかに賑わいを。
	・そば文化			
18 地場産業の元気なまち		・中標津で育った若者、転入者の働く場がない ・今後人口は全国的に減少傾向が予測される	・産業、商業、農業の活気のあるまちにする必要がある ・中標津へ帰ってくる若い人たちが働ける場を増やしていく必要がある。	・大型工場の誘致促進。
			・新しく働く場所、地場産業をつくり若者が張り切って生きていけるようにする必要がある。	・防風林の間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。 ・ペレットの会社、ストーブの会社をつくる。 (防風林の管理にもなる)
			・若い人たちが出店できる環境を整える必要がある。	
			・異業種間のコミュニケーションが必要。	

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
19 街なかの賑わい、市街地の活性化	・郊外に住宅が増え、街の中心が移った。	・人が街にいなくなった。	・町民に親しまれ、人が集まる、暮らしやすい、賑わいのある街づくりが必要。	・街なかに役場の機能をつくる。
	・昔は駅中心に人がいて活気があった。	・10年、20年後、家族が生活することができるのか？	・人が歩ける、歩いて人が多い町、中心部に必要がある。	・公共施設を街なかに
	・昔は若い人の活気があった。 ・いろいろなモノがそろった街だった。	・人が歩くことでコミュニケーションが広がる。 ・市街地の空洞化が目立つ	・300m半径内で生活用品等がまかなえる町が望まれる。 ・小さい商店に人が集まるようにする必要がある。	・病院跡地の活用を図る ・商店、喫茶店、定食屋、朝市を街なかに
	・昔は導線のなかに活気があった。		・街のなかにいつでも人の集まる場（核、ハブとなる場）が必要。	・プラットショップ店、アーケードを街なかに（歩いて300～500m）。
	・まちなかを散歩してみると歩道整備も景観も良い。		・中心部へ人をどう移動させるかを考える必要がある。	・見せるお店づくり、連なった店舗づくりを行う
	・コンパクトにまとまっているイメージがある。		・市街地人口の減少に歯止めをかける対策が必要。	・歩行者天国など行って、街のなかに集まれる場所をつくる。 ・バスターミナルを東7条へ
				・病院施設を中心部に配置す
			・空き店舗と空き地の再利用が求められる。	・空き店舗を活用した農高や森の家の商品販売等。
	・店舗と住居が同じ時代があった。		・商店街の活性化が必要。	・店に住みつく
				・全天候型商店街化。 ・地元企業の複合型ショッピングモール化。
		・丸山公園が有効に活用されていない。	・丸山公園の魅力を見直し、丸山公園を絡めてまちづくりをする必要がある。	・丸山公園を活かす
				・家族で楽しめる娯楽施設を ・試験場前の地域に広域な公園をつくる。
	20 交通の利便、立地特性を活かす	・空港という核となる交通アクセスがあり利便がよい(町から空港まで10分)	・10年、20年後、交通アクセスは？電気自動車はどうなるのか？	・空港の利用促進、利活用をどうするか。
・道東(根室～羅臼、別海、標津etc)の中心に位置し日帰りが可能 ・近くに都市がない				
・観光地が100km圏内にある				

まちづくりフォーラム（H21.11.5） ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
21 観光の振興	・商業都市としても、緑と食などPR素材は多数ある。	・観光のキャッチフレーズで何を目玉にするか。	・特産物をPRし、特産物を利用した観光を行う必要がある。	・お土産品に町内の他の店舗のカタログを入れるなどの連携した取組を行う。
	・ゴルフ場がある	・道の駅がない。	・情報発信基地、交流拠点が必要。	・観光案内のプロを育成する。
	・養老牛のモアン山がある	・中標津からの発信が少ない。	・豊富な自然の魅力を生かした観光振興を行う必要がある。	・滞在型の観光モデルを形成する。
	・観光資源となる温泉が多い		・温泉等、観光施設の有効活用をうまく行っていく必要がある。	・温泉を観光の目玉にPR。
				・雪印(トップクラスの企業)を活用する。
	・開陽台はすばらしい	・開陽台のPR		・町の自慢のスポットをつくる。 ・開陽台に東屋をつくる
	・ゆめの森公園がある		・ゆめの森公園の利用拡充を図る必要がある。	・森林公園との一体的活用。
22 広域連携	・周辺町村の広域的商業圏を持つ。	・周辺をどう巻き込むか。また巻き込んでいかなければならない。	・周辺の町と連携し互いの良いところを取り入れて、共によいまちづくりを行う必要がある。	・合併して根室管内の中核都市に。
			・中標津だけではなく、近隣市町村も含めて地域周辺全体～道東(根室+釧路)まで広げてを考えて行くことが必要。	
			・PRは、町単独ではなく管内単位で魅力を発信することが必要。	
23 コンパクトな都市づくり		・都市機能の拡大が見られる(大きくなっても困る)	・街の規模の維持(コンパクトな市街地形成)が必要	・用途地域を見直し、中心部に併用住宅?や規制緩和。
		・自然を壊しているのも事実。	・今ある基盤整備を活かして行くことが求められている。(ゆめの森公園、空港、ゴルフ場、高等養護学校)	
			・空洞化ではない市街地の再利用を考える必要がある	
			・周辺部のことも合わせて考えながら、コンパクトな市街地を考える必要がある。	
24 都市マスの推進	・都市マスは、中標津の底力をもう一度考える機会		・都市マスの決めごとを発信し続けていくことが必要。	
		・10年・20年先だけのことを考えるのでは短	・100年・200年先を見据えたまちづくりの議論をすべき。	
			・何をつくり、何を残し、何を残すのかを議論すべき。	